

# こんにゃく新品種「みやままさり」に適した切断増殖法

## 1. 試験のねらい

こんにゃく新品種「みやままさり」は作付面積の拡大が見込まれているが、従来の塊茎による種芋の増殖だけでは、品種転換に時間と労力がかかる。新品種への速やかな品種転換には、植付前に球茎を切断して増殖を行うのが効率的である。みやままさりは、出芽と開葉が「あかぎおおだま」などと比較して遅いので、みやままさりに適した主芽の切除時期、植付時期等を検討し効率的な切断増殖技術を確立する。

## 2. 試験方法

農業試験場本場（宇都宮市）の表層多腐食質黒ボク土ほ場において「みやままさり」を供試して以下の項目について検討を行った。

### (1) 主芽の切除時期および植付時期の検討

種いもの主芽の切除を2005年、2006年の12、2、3、4月に実施し、切除時期と収量（新球茎重）の関係を調査し、切断した種いもの植付は4月下旬から6月上旬に行い、植付時期と収量の関係を調査した。

### (2) 切片重および分割数の検討

2006年に切断した種いもの重量と収量の関係を調査した。2007年に種いもの分割数（種いものを4～16等分した）と切片の重さが収量に及ぼす影響を調査した。

## 3. 試験結果および考察

(1) 主芽の切除時期は、開葉期が遅れず球茎重も良好な2月下旬までに行い、種いもの植付時期は、6月上旬になると収量が劣るため、5月下旬までに行うことが適すると判断した（図 - 1、2）。

(2) 切片重は、一片が60g以上で収量比が優れた（表 - 1）。分割数は、切片が大きくても、6個以上に分割すると出芽不良球率が高くなるので、4分割にすることが適すると判断した（表 - 2）。

## 4. 成果の要約

こんにゃく「みやままさり」を切断増殖法によって増殖する場合は、生育期間を確保するため主芽の切除を2月下旬までに行い、5月下旬までに種いものを切断して植付を行う。種いもの大きさは60g以上とし、分割数は4分割までとする。

（担当者 作物経営部 作物研究室 山口昌宏）

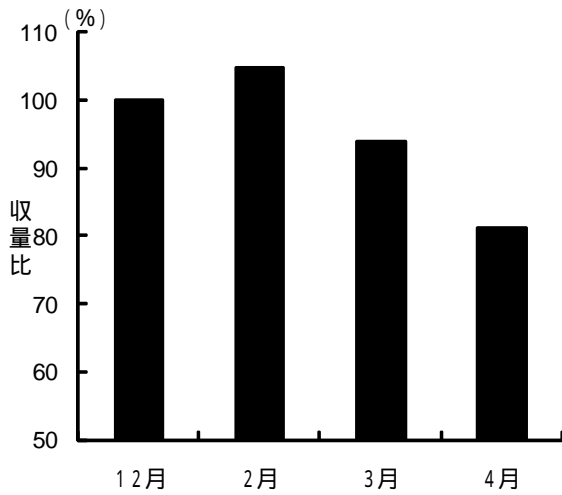


図 - 1 主芽の切除時期と開葉期・球茎重

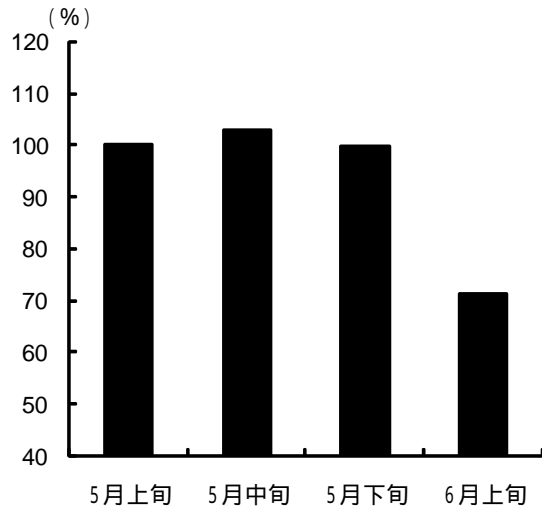


図 - 2 植付時期と開葉期・球茎重

注1．図 - 1 の球茎重比は12月切除を100%とした比、2005年～2006年

注2．図 - 2 の球茎重比は5月下旬植付を100%とした比、2005～2006年

表 - 1 切片重・分割数と収量との関係 (2006年)

切片重	分割数	株間	収量	収量比	肥大倍率
g/切片		cm	kg/a	%	
65	4	10	201	141	2.0
43	6	10	97	68	1.9
64	4	15	142	100	1.4
41	4	15	89	63	2.0
32	4	15	71	50	2.0
23	4	15	37	26	1.5

注1．球茎重比は切片重64g、分割数4、株間15cmを100とした比

注2．肥大倍率は植え付けた切片の重量に対する球茎重の比

表 - 2 切片重・分割数と収量 (2007年)

切片重	分割数	収量	出芽不良球率
g/切片		kg/a	%
50	4	75	6
65	4	101	7
100	4	128	9
100	16	50	37
200	8	97	39